

日本基督教団燕教会が国登録有形文化財に登録

令和3年2月26日、中央通二丁目の日本基督教団燕教会にほんきりすときょうだんつばめきょうかいが国の登録有形文化財に登録されました。

燕教会は、久保田重松商店くぼたじゅうまつ（通称：花松）の久保田重松氏が、昭和5年（1930）に私財を投じて建築したものです。教会は1階を保育園、2階を礼拝所とし、燕町におけるキリスト教の伝道に供されるとともに、教会内の「喜久保育園」は、燕町の主要産業である金属加工製造業に従事する多くの人を支えました。

また、日本各地で多くの西洋建築を設計したことで知られる W.M.ヴォーリズヴォーリズの設計と伝わり、新潟県内に現存する数少ない歴史的キリスト教建築の一つです。

燕教会は、昭和初期から燕町の中心部にあり、移り行くまちの歴史を見つめてきました。

【登録物件概要】

名称	日本基督教団燕教会（にほんきりすときょうだん つばめきょうかい）
所在地	燕市中央通二丁目 3361
構造及び形式	木造2階建て切妻造り棧瓦葺き
建築年代	昭和5年（1930）
特徴	昭和初期の木造洋風建築で、前後に突出部を設ける。外壁は下見板張りで2階に半円のアーチ窓を並べ、正面に十字架を掲げる地域の景観を形成する木造教会。 市の中心部にあり、アーチ窓や外壁、十字架が印象的な建物。
登録基準	一、国土の歴史的景観に寄与しているもの



正面外観



礼拝所

(撮影：(株)グリーンシグマ)

令和2年度 燕市文化財保護事業の紹介

●稲葉遺跡 発掘調査（7月～9月、11月～2月）

稲葉遺跡は、米納津集落の東側の平野部に立地し、県道月潟・吉田線沿いに位置します。

調査は、県営ほ場整備事業（米納津・佐渡山地区）の揚水機場と用排水路工事に伴い、実施されました。

調査の結果、遺跡は平安時代の集落跡であることが分かり、お鍋や食器、貯蔵に使用した土器や、文字の書かれた土器（墨書土器）、砥石などの生活用具が出土しました。調査では、畑の畝跡が多く検出された一方、建物跡はほとんど検出されず、集落内の生産域であったと考えられます。9月12日（土）に開催した現地説明会には、市内外から多くの方が訪れ、古代に思いをさせていました。

発掘調査は遺跡の一部にとどまり、全体を把握するには至りませんが、古代の人々の暮らしが確かにこの地に息づいています。



遺跡位置図



平安時代の畑の畝跡（左が北）



土器出土状況



現地説明会の様子

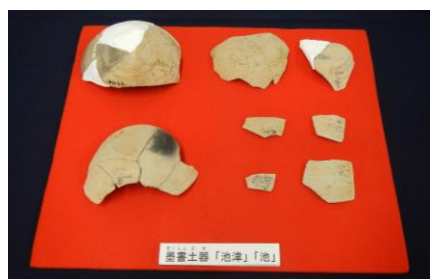
●遺跡出土品展「発掘された燕の歴史」（3月6・7日）

令和3年3月6日（土）・7日（日）の2日間、これまでの調査成果を紹介し、地域の歴史を知っていただくため、燕市遺跡出土品展を中央公民館で開催しました。

今回は、稲葉遺跡の調査成果を速報的に紹介するとともに、中組遺跡や北小脇遺跡など周辺の古代遺跡から出土した品々を中心に展示し、主に奈良・平安時代の様子を紹介しました。会場には、展示を見ながら答えられるクイズや参考図書などを用意し、参加者は展示解説やクイズを楽しみながら昔と今の暮らしの違いや似通ったところに関心を寄せていました。



展示風景



中組遺跡出土 墨書土器



展示解説